

各関係機関長 殿
病虫害防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成31年度農作物病虫害発生予察情報について

平成31年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成31年度農作物病虫害発生予報第1号

平成31年4月26日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では, 発生圃場率が36.4%と, 平年(13.2%) に比べて高いが, 本田生息虫数は0.6頭と, 平年(0.8頭)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が4月25日に発表した1か月予報では, 気温及び降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%, 発病葉率が0.0%, 発病果率が0.0%)。
- (2) 平成30年9月3半旬及び10月3半旬の巡回調査では, 発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。また, 平成31年3月4半旬の芽基部の調査でも, 発病を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.8%, 芽基部発病率が0.2%)。
- (3) 高松地方气象台が4月25日に発表した1か月予報では, 気温及び降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し, 防除に努める。

赤星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が36.6%, 発病葉率が4.8%)。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では, 気温及び降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが, 5月上旬頃まで飛散する可能性があるため, 防除暦に準拠し, 防除に努める。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 2018年の勝浦町における予察灯誘殺数は, 7月6半旬より急増し, 10月6半旬までで17,269頭と, 平年の約4倍であった(図1)。また, 温州ミカンで落果の被害が認められた。
上板町における予察灯誘殺数は, 7月6半旬より急増し, 10月6半旬までで1,445頭と, 平年の約1.9倍であった(図2)。また, カキ果実等の吸汁被害が認められた。

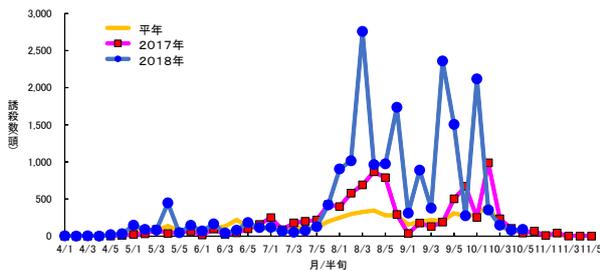


図1 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(勝浦町)

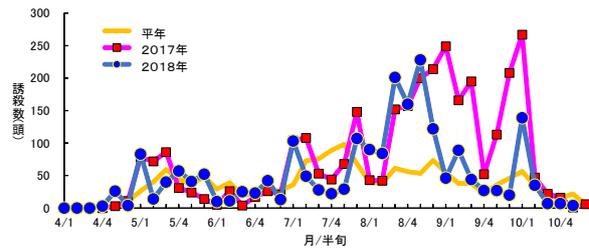


図2 予察灯による果樹カメムシ類(ツヤアオ+チャバネ+クサギ)の誘殺数(上板町)

- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 9地点で越冬を確認, 越冬成虫は7.0頭/m²であり, 平年(1.6頭/m²)に比べて高く, 前年(成虫確認地点数は8地点, 越冬成虫数は0.9頭/m²)に比べて高い越冬密度であった。
- (3) 今春の予察灯調査においては, 勝浦町では平年(4月23日)より33日早い3月21日にツヤアオカメムシの初誘殺を確認した。しかし, その後は, 4月第4半旬まで誘殺を認めていない。また, 上板町では4月第4半旬まで誘殺を認めていない。
- (4) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では, 気温及び降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が高いため, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、発病株率が5.1%と、平年(6.4%, 0.7%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温及び降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。
- (2) 発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。
- (3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が8.0と、平年(63.8%, 4.6)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温及び降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第5半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、葉の被害度が0.1と、平年(88.8%, 4.8)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が4月25日に発表した1か月予報では、気温及び降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は少雨の状態が続くと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。